



三春町 × 酪王協同乳業株式会社 包括連携協定事業

復刻！三春牛乳



昭和32年から50年まで三春町で製造されていた「三春牛乳」を知っていますか？

福島県民におなじみの酪王牛乳の前身が、実はその三春牛乳だったのです。

2025年は三春町合併70周年、酪王牛乳誕生50周年となる節目の年。

それを記念し、三春町と酪王協同乳業株式会社の包括連携協定事業により、

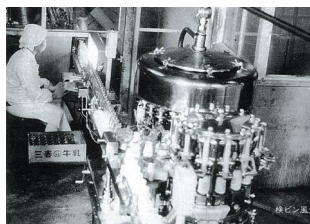
酪王牛乳のパッケージ上で復刻します！

※「三春」はデザインの一部です。牛乳の原産地を表すものではありません。

三春牛乳とは？

戦後、旧御木沢農協が新しい作目として酪農事業に取組み、昭和32年（1957年）に牛乳加工場を三春駅前に建設。「三春牛乳」の製造・販売が始まりました。開始当時の生産量は1日3千本、価格は1本10円。新しい販路を開拓しながら約3年かけ1日1万本に生産を増やし、二本松、猪苗代、会津若松、福島、いわきまで販売エリアを拡大しました。

そして昭和50年（1975年）、福島県全体の酪農事業の拡大を見据え、旧御木沢農協の牛乳加工部が県酪連（福島県酪農販売農業協同組合連合会）後の酪王乳業株式会社、現在は酪王協同乳業株式会社（市乳部と統合。三春牛乳に代わり、「酪王牛乳」が誕生しました。三春牛乳の名前は無くなってしまいましたが、酪農事業における先人たちの技術や情熱は、今に受け継がれています。



▲検ピン作業の風景(写真:「農協のあゆみ 御木沢農協43年の記録」より)

◀三春駅前にあった三春ミルクプラント (写真:ENEOS三春駅前SSIに掲示)

旧御木沢農協による 三春牛乳のあゆみ

1955
↓
2025

●昭和30年「1955年」

旧御木沢農協が養蚕・葉たばこに代わり、新しい作目として「酪農」の導入を検討。

●昭和32年「1957年」

三春ミルクプラントを三春駅前に建設、操業開始。ブランド名を「三春牛乳」に。

●昭和33年「1958年」

郡山市清水台に出張所を開設。

●昭和40年「1965年」

雪印委託製造開始(43年まで)。

●昭和41年「1966年」

営業所を二本松、猪苗代、会津若松、福島、いわきに開設し、販路を拡大。

●昭和43年「1968年」

1日1万2千本の製造ラインを増設。東北では2番目となるテトラパックの製造を開始。

●昭和50年「1975年」

牛乳加工部が県酪連(福島県酪農販売農業協同組合連合会)後の酪王乳業株式会社、現在は酪王協同乳業株式会社)市乳部へ移管。新しいブランド名を公募し「酪王牛乳」となる。

●昭和56年「1981年」

三春工場を閉鎖。

●平成4年「1992年」

御木沢農協、三春農協、沢石農協が合併し、三春町農業協同組合が発足(現在はJA福島さくし)。

●令和7年「2025年」

三春町合併70周年、酪王牛乳誕生50周年を記念し、三春牛乳が酪王牛乳のパッケージ上に復刻!



▲昭和50年頃。容量が180mlから200mlに増量し、再び黒い三春駒に。



▲昭和40年代中期～昭和50年頃。年代によって色や三春駒のデザインが変わっています。



▲昭和40年代中期頃のビン。白い三春駒から、黒い三春駒にチェンジ。



▲昭和30年代誕生当時。シンボルマークの三春駒の絵は代々続いていきます。

三春牛乳 ビンの歴史

(※)牛乳ビン画像は漂流乳業(<https://www.citymilk.net/>)より引用。

三春・復刻牛乳の 販売問合せ

みどり商事

Tel.0247-62-2177

※復刻版三春牛乳の売り上げの一部は、淹桜の保全活動に使われます。



酪王協同乳業株式会社
佐久間代表取締役社長

復刻版パッケージへの思い

酪王牛乳の原点である三春牛乳。今回の復刻で、先人たちの努力と想いを若い世代に知ってもらうきっかけになればと強く思います。

酪王牛乳は、生乳本来の味に近く飲みやすいのが特徴です。骨を強くするカルシウムが豊富で、栄養も吸収されやすいので毎日飲んでほしい飲み物です。酪農家、ドライバー、工場が一体となった徹底した品質管理のもと、美味しい状態で学校給食や食卓へ届けています。復刻版牛乳をたくさん飲んで健康な体を目指しましょう!